

特集

# 片岡のアツイ夏

～にぎわいを子どもたちへ～

今年の夏も矢板はあつくなりそうだ。

中でも、片岡は特にあつくなることが予想される。

これは気温の話ではなく、人々の世の話である。

7月末に片岡で初開催される国内最高峰自転車レース「Jプロツアー」。

今号では、開催に至るまでの地元の人たちの思いを紹介する。



片岡というまちには、  
生活の中に「コミュニティ」が根付いている。



片岡駅を中心に、  
人が集まる仕組みをつくっていききたい。

### 片岡地区コミュニティ推進協議会の果たす大きな役割

本市で初めての開催となる国内最高峰の自転車レース「Jプロツアー」。Jプロツアー大田原クリテリウム・片岡ロードレース実行委員会会長である、江面晃一さんにお話を伺いました。

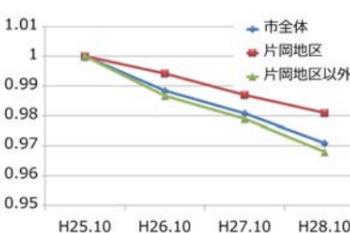
Jプロツアー大田原クリテリウム  
・片岡ロードレース実行委員会

江面 晃一 会長

(江面晃一さん：現片岡地区コミュニティ推進協議会会長。片岡地区住民の生涯学習推進を通して生きがいづくりの実現に、日々奔走している。)



矢板市の南の玄関口として発展してきた片岡地区は、主要な交通機関である東北自動車道矢板 I.C・国道 4 号・JR 宇都宮線片岡駅のほか、近隣市町と主要な県道で結ばれているため、交通アクセスの良い環境にあります。平成 27 年には JR 片岡駅の駅舎が竣工し、片岡の新しい顔となりました。



▲片岡地区の人口減少割合の推移 (平成 25 年を 1 として算出)

また、人口の動きをみても、市全体の人口減少の割合と比べて、片岡地区の減少の割合が緩やかなのは、片岡地区への人口流入が多いと言えるのではないのでしょうか。

これは、自然と住環境・産業の調和がとれたまちとして、魅力が高まっている証ではないかと思えます。

片岡地区には、昭和 53 年に地区の全住民を会員として設立された「片岡地区コミュニティ推進協議会」があります。

協議会の目的を「地域住民の自治精神を基として関係機関、団体と連携を密にし、住民の自主参加を促し、地域連帯意識を深め、健康で文化的な生活が営めるような地域づくりをすること」と定め、コミュニティ文化祭や



▲コミュニティ文化祭の様子

新春講演会を行うなど、地域コミュニティの向上と地域総ぐるみで生涯学習活動を推進しています。現在は 4 つの部会(総務、生活環境、文化、スポ・レク)と会報を発行する広報編集委員会に分かれ、それぞれが片岡地区住民の充実した生活の実現に向け積極的に活動しています。

これまでのコミュニティ活動により培った、何事にもみんなで協力し合いながら取り組む気質が、片岡というまちには根付いています。



▲コミュニティ文化祭の様子

新春講演会を行うなど、地域コミュニティの向上と地域総ぐるみで生涯学習活動を推進しています。

現在は 4 つの部会(総務、生活環境、文化、スポ・レク)

### 片岡駅の整備をきっかけに、「人を呼び込む」機運が高まってきた

片岡駅周辺の整備が地域の一体感を生んだ

片岡地区は、JR 宇都宮線が縦貫しているため、これまで、線路の西側に住む人たちが駅を利用する際に、線路を渡って改札のある駅の東側に行かなければなりませんでした。駅の橋上化・駅西口の整備により駅西側からのアクセスが格段に向上しました。これを機に、駅東西地域の一体感が感じられるようなにぎわいをつくらせ、協議会や有志によるさまざまなイベントが企画されました。



▲片岡イルミネーションの様子

協議会では、毎年クリスマスシーズン恒例となっている駅前の手作りイルミネーションを、昨年より駅東口に加え、駅西口にも拡大し披露したところ、駅の利用者だけでなく、駅に停車する電車の乗客にも楽しんでいただけるようになりました。この取り組みの様子は、テレビでも放送され、市内外から多くの方が駅を訪れるきっかけとなりました。



▲神輿が駅を渡る様子

地元有志によるにぎわいづくりも盛んに行われました。昨年 4 月の駅西口オープンイベントに始まり、夏には 20 年ぶりとなる子ども神輿を復活させ、神輿が

橋上化された駅を渡りました。渡った先の西口では、安沢地区の方の協力で切り出してきた竹を使い、87m の流しそうめんを行いました。駅の東西に住む人たちが、流しそうめんを楽しみながら交流する姿を見て、東西の一体感がさらに高まったのを感じました。



▲流しそうめんを楽しむ様子

片岡の強みが活かした「かたおか軽トラ市」

片岡ににぎわいをつくりたいとの思いから、片岡地区での軽トラ市開催を提案し、市商工会の協力もあって、「かたおか軽トラ市」が昨年 10 月に行われました。



▲かたおか軽トラ市の様子

その際には、片岡の有志が積極的に近隣の市町で PR 活動を行ったところ、会場も駅西口の目の前ということもあり、市外から多くの方に来ていただきました。矢板市の南の玄関口として、各方面からのアクセスの良さが「強み」として生きたイベントだったと思います。片岡には「集客力」というポテンシャルが秘められているということに、改めて気付かされるきっかけとなりました。



## 駅から徒歩0分、 地域の特性を活かしたJプロツアー開催へ。

### Jプロツアーをきっかけに、にぎわいと片岡の誇りを次の世代に

#### 片岡に住んでいることを誇りに思えるように

これまで片岡で行われていたイベントは、地域に住む人たちが文化的、精神的に豊かな暮らしができるよう、地域のコミュニティ活動の一環で行われることが多く、地域外から人を呼び込むような大きなイベントは行われてきませんでした。今までのようなコミュニティ活動も当然大切なことで、これからも引き続き行っていく必要があります。今回、Jプロツアーの開催地として話が合った時、これまでのコミュニティ活動や交通の利便性が地域外の人たちから評価されたのだと思いました。

そして、住民主体の取り組みにより、Jプロツアーを成功させることは、我々住民の自信につながり、観戦に来た人たちに私たちの取り組みを知ってもらい、そして評価されることが、地域への愛着や誇りの醸成につながると考えています。

#### 地域外の人との交流を通して、質を高めていきたい

コミュニティ活動の中で、多くのことを自主的・主体的に行ってきましたが、今回のJプロツアーのイベントでは、市や関係機関、各種団体、専門家などの協力を得



▲Jプロツアー実行委員会の様子

ながら進めていくことが必要となります。地域外の人との協働を通して得られた知識やスキル・経験は、片岡の地域の中で消化吸収され、コミュニティの今後の活動

の幅や質の向上につながるものと考えています。

地域住民の主体的な取り組みからの成功体験が住民のまちづくりへの自信につながるのではないのでしょうか。

#### コミュニティ活動で培った片岡の力を見てもらいたい

Jプロツアー大田原クリテリウム・片岡ロードレース実行委員会を立ち上げる前段で、準備委員会を開いた際には、総勢150人が名を連ねました。これは、地域が盛り上がることには協力を惜しまない、片岡のコミュニティ精神が垣間見えたと思います。

現在は、大会を盛り上げるためのイベント企画、大会を支えるためのサポート体制の構築、大会に関する施設や関係団体との調整や協力依頼などをいくつかのグループに分かれ、それぞれが主体的に活動を行っています。こうして、片岡の地理的優位性・これまで培ってきた住民の連帯感が、会場まで駅から徒歩0分という、Jプロツアー史上これまで例を見ない駅前開催を実現させ、大会を成功に導くものと思っています。

先人が築いたコミュニティ精神を受け継いだ我々が、その精神を守り、そして発展させ、次の世代へと引き継いでいくことが、将来にわたり多くの人たちでにぎわり、片岡の明るい未来につながるものと信じています。



▲150人が集まった準備委員会の様子

## ところで、Jプロツアーってなに？

Jプロツアーとは、2006年より開始した全日本実業団自転車競技連盟（JBCF）が主催する自転車ロードレースのランキング制度のことです。ヨーロッパのプロツアーをモデルとして、ロードレース競技の底辺拡大のため、多くの人に見てもらえる機会をつくることで、より多くのファンを増やし、他のプロスポーツに匹敵する競技としての認知度を引き上げるべく創設されました。

Jプロツアーには、現在全国から22のチームが参加しており、県内では、プロ自転車レースチーム「宇都宮ブリッツェン」「那須ブラーゼン」「Honda 栃木」が参戦しています。

全国各地で開催されるレースでは、海外のレースにも参戦する有力選手の走りを間近で見ることができることから、サイクルスポーツの人気向上とともに、各会場は多くの

ギャラリーが一体となってレースを盛り上げています。初心者から未来のプロを目指すライダーのため「Jエリートツアー」があり、段階を踏んだレベルアップが可能です。これからロードレースをはじめのライダーには、ヒルクライムレースを主体とするツアー「Japan Friendship Cycleroadrace=JFC」も開催されています。



宇都宮ブリッツェン

那須ブラーゼン

## 7/30 (日) Jプロツアー第13戦 第1回JBCFやいた片岡ロードレース



フェイスブック

市内初開催となるJプロツアーのロードレース。前日の大田原クリテリウムと合わせて行われる2 in 1レースで、県内プロ自転車レースチーム「宇都宮ブリッツェン」「那須ブラーゼン」のホームレースとなります。

やいた片岡ロードレースは、JR片岡駅付近をスタート・ゴールとして、緑豊かな山間の住宅街を駆け抜ける約10kmの周回コースです。イベント会場は、駅西口から徒歩0分というアクセスの良さから、レース観戦に多くの自転車ファンが矢板を訪れるものと見込まれています。

地元の片岡地区でも、レース観戦者をおもてなしするため、飲食ブースや各種催し物を一丸となって準備しています。1日中楽しめる自転車の一大イベントに、家族みんなで出掛けてみてはいかがでしょうか？

#### 【大会スケジュール（予定）】※雨天実施

- 8:30 ~ 交通規制開始
- 9:00 ~ 開会式
- 9:00 ~ Jエリート競技スタート
- 11:00 ~ Jプロツアースタートセレモニー
- 14:00 ~ Jプロツアー表彰式
- 16:30 交通規制解除
- 16:30 ~ 閉会式

#### 【各種イベント】9:00 ~ 16:30

【飲食ブース】10:00 ~ 16:00

#### 【問い合わせ】

Jプロツアー大田原クリテリウム・片岡ロードレース  
実行委員会事務局 ☎(43)1112



【ご注意】大会当日、競技コースおよびイベント会場周辺の道路は交通規制が実施されます。規制箇所・規制時間等の詳細は、大会ホームページでご確認ください。大変込み合いますので、ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。